

批判的思考を促す「深く考える 協働場面」を導入した授業

—「環境に配慮した消費行動」から
「よりよい生活」につなぐ学習—

土屋 善和 Tsuchiya Yoshikazu 琉球大学教育学部講師

専門は家庭科教育。家庭科における「学力」をテーマに研究を進めている。現在は、生活を創造する力として批判的思考力に着目し、批判的思考力を育む授業検討や教材開発を行っている。

このコーナーでは、消費者教育の実践事例を紹介します。

本授業の目的とねらい

今回実践した「批判的思考を促す『深く考える協働場面』を導入した授業」は、中学校家庭科の消費生活を題材とした4時間構成のうちの4時間目に設定しました。本授業は、環境を変えることで自分の生活が変わること、また自分の生活を変えれば環境を変えられること、つまり環境と自分の生活との相互作用の關係に気づかせることを目的としました。そして生徒が環境に配慮した消費行動を実践することで、社会や自身の生活がどのようによくなっていくか考えられるようになることをめざしました。

班単位で検討する学習が中心

(1) 授業概要

授業は、2017年2月下旬から3月上旬に行いました。対象は、琉球大学教育学部附属中学校3年生4クラス(計145名)です。授業は、生徒の実態と課題をヒアリングした後に私が立案し、附属中の家庭科教諭が実践しました。

(2) 授業の流れ

授業の流れを表1に示します。ここでは、特に本授業の中心的な学習活動となっている「深く考える協働場面」の内容を説明します。

まず、4～5名ずつの班に分かれ、模造紙上段に「私たち(または中学生)ができる環境に配慮した消費行動」、下段に「よりよい生活」と記入しました。「私たち」と「中学生」とに分けた理

表1 授業の流れ

導入	(5分) 前回の授業の振り返り
展開	(40分) 【深く考える協働場面】(グループ活動)
<p>私たち(中学生)ができる「環境に配慮した消費行動」がどのように「よりよい生活」につながるのか考えよう!</p>	
<p>① 私たち(または中学生)ができる環境に配慮した消費行動を考え、付箋に書き出し模造紙に貼る。</p>	
<p>② 付箋に書いた消費行動をすることでどうなるのか(効果・影響)を模造紙に書き出す。その際に、最終的に、「よりよい生活」へとつながるように考える。</p>	
<p>③ 各班の模造紙を見て回り、コメントや助言を付箋に書いて貼る。</p>	
<p>④ 自分の班に戻り、再度意見を練り上げる。必要に応じて模造紙に付け足しをする。</p>	
まとめ	(5分) 今後の消費行動について記述する。

由は、中学生と中学生以外では考えられる行動に違いがあると想定したからです。

次に、環境に配慮した消費行動を考え、付箋に記入(赤色は「食」、黄色は「衣」、緑色は「住」)し、それを模造紙に貼りました。付箋には、「エアコンの温度を調整する」「調理中のごみをなるべく出さない」といった、実生活における生徒の身近な行動が記載されていました。

そして、付箋に記載された消費行動の効果や影響を考え、模造紙に直接記入していきました。またその効果や影響がどのようなことを引き起こすのかも考え、さらに必要に応じて模造紙上の他の内容と結び付けていくことで、最終的に「よりよい生活」へつなげられるように考えを掘

図 生徒が意見をまとめた模造紙



り下げていきました。

一通り班で模造紙に考えをまとめた後、他の班の模造紙を見て回り、コメントを青色の付箋に記入して、模造紙に貼っていきました。

そしてそのコメントを参考に、再度模造紙上の意見をまとめる場面も設けました。以上が学習の一連の流れとなります。生徒は図のように意見をまとめました。

環境に配慮した消費行動について深く追究することで、生徒はそうした行動の意味や必要性を見だし、さらに自身の生活との結び付きにも気づくため、実生活における実践につながると考えました。

「深く考える協働場面」で促される批判的思考

班内での学習において環境に配慮した消費行動について追究する際に生徒は、「その行動がなぜ環境に良いのか」「この行動とあの行動には関係性があるのか」「この行動をすることでどのように『よりよい生活』に結び付くのか」といった思考を巡らすことが想定されます。

これらの思考は、省察的、客観的、多面的、懐疑的であり、意見や考えを批判的にとらえているといえます。つまり、消費行動を深く掘り下げて考える今回の学習を通して、生徒の批判的思考が促されると考えられます。

また、生徒の批判的思考を促すために、教諭から「この効果・影響があると、今度はどうな

表 2 生徒の記述

- ・私達の普段の行動は、よりよい生活につなげることができるんだとわかった。ゴミを減らすことで、いろいろな選択肢が増えたので、まずはそれからやっていきたいと思います。
- ・環境に良い行動がどんな行動かということは知っていても、その行動をすることで、どんな結果になっていくのかということは詳しく考えたことがありませんでした。でも、これからは自分の行動がどんな結果を生むのかまで考えて、目的を持って行動できると思います。

るのかな」「この消費行動からは、この効果・影響しか考えられないかな。他にはないかな」「ここからどうやって『よりよい生活』につながるのかな」といった声掛けをしました。

自身の行動の重要性を再認識

授業の最後に生徒には、今回の学習を通して今後どのような消費行動をしていくかを考えて記述してもらいました(表2)。

生徒は、環境に配慮した消費行動にはさまざまな効果や影響があり、自分のよりよい生活につながることに気づいたようでした。また、見通しを持って物事を深く多面的に考えることの必要性に気づいた生徒もいました。

課題および今後の展開

課題としては、表1の授業の流れのうち、「展開」の③に当たる班同士の交流の持ち方が挙げられます。この場面は他の班の意見を知ることができるだけでなく、他の班からコメントがもらえる機会でもあるため、これをもとに生徒は思考を深め、自分たちの意見をさらに練り上げることができると考えました。しかし今回は、生徒が意見を練り上げるための場面として十分に機能しませんでした。

したがって今後は、班同士で意見交流をする場面を、班内での考えをさらに深めることができる場面として機能するような手立てを検討し、授業改善を図っていきたいと考えています。

※ 本授業は、科学研究費基盤研究C「21世紀型能力としての批判的思考力を育成する中学校の授業デザイン」(代表：道田泰司 課題番号16K04306)の助成を受けたものです。